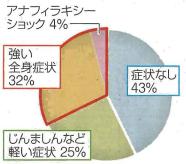
2019年4月20日(土) 山陽新聞 「第1全県]

鶏卵や牛乳、小麦など特定の食物に対するアレルギーが疑 われる子どもらに、実際にその食物を口にして症状が出るか を確認する試験で、実施した計約300件の4割余りは症状が 現れなかった一との報告を川崎医科大(倉敷市松島)の尾内 信教授=小児科=らがまとめた。アレルギー治療を目的に、 本来避けなくてもよい食物まで除去することで栄養不足や成 長障害を招く恐れが指摘される中、そうした事態を防ぐため の正確な診断の必要性を改めて示す形となった。 (小若菜美)

疑し

食物経口負荷試験の集計結果



試川 134件 験崎 データ分析医大教授ら

尾内--信教授

3件の 同大付属病院 多いとされる。 生ら182人に行った延べ31 年1月~今年3月に幼児や小学 食物経口負荷試験」と 同 尾内教授らは、 で2013 す方式で実施した。 通常1食に含まれる量まで増や りした食物を少しずつ口にし、 り、目安となる血液検査を基に 医師から避けるよう指導された

ど重い急性症状

状があった。 でじんましん、

シーショック」12件

含め100件

32%

身症状が見られた。

に反応して起き、

乳幼児で特に

験は過去に体調不良を起こした 呼ばれる試験データを分析。

試

症状が現れず

79 件

り組みは把握していないとい

ないとみられる。施設単位の取

ると、食物経口負荷試験の集計 分析は、全国規模では過去に

食物アレルギーは特定の食物

43 % はアレルギ

することのない適切な栄養指 に基づき、不必要に食物を除去 導が不可欠」と尾内教授。 い割合が高かった。正確な診断 「思った以上に症状が現れな 方、呼吸困難な 紅斑など軽い症 アナフィラキ (4%) を に強い全 25 % 日 ことのないよう呼び掛けてい 5件では、 を子どもらに行った結果も 師の監督外で同療法を始める ケースで口にできるようになっ 計。 82%、牛乳の59%など多くの して治療する「経口免疫療法」 状を起こす食物を少しずつ摂取 13年1月~18年9月の12 効果を確認する一方、 鶏卵アレルギーの アレルギー 集

本アレルギー学会(東京)によ